平成25年度　第４回京都市上下水道事業経営審議委員会議事録

日　時　　平成２６年２月４日（火）　午後５時～７時

場　所　　京都市上下水道局本庁舎　別館１階研修室

出席者（五十音順，敬称略）

１　委員

植田　智史　　市民公募委員
神子　直之　　立命館大学教授（理工学部）
小林　由香　　税理士
田村　直子　　市民公募委員
中嶋　節子　　京都大学准教授（大学院人間・環境学研究科）
水谷　文俊　　神戸大学教授（大学院経営学研究科）
村上　祐子　　株式会社京都放送取締役・ラジオ編成制作局長

２　京都市

管理者，次長，技術長，総務部長，総務部経営・防災担当部長，
技術監理室長，水道部長，下水道部長
事務局（総務部経営企画課）

次第

１　開会

会議の公開について

２　審議

（１）平成２６年度の重点課題について
（２）上下水道局の広報活動について

３　報告

第１回琵琶湖疏水クルーズ（仮称）検討プロジェクトチーム会議について

４　今後の予定

５　閉　会

内容

１　開会

会議の公開について

事　務　局：　資料の説明（資料２，３）

水谷委員長：　本日の会議は公開とし，議事録については，後日公表することとする。

第３回審議委員会の議事録を確認したい。修正などなければ，議事録を承認することとする。

２　審議

（１）平成２６年度の重点課題について

事　務　局：　資料の説明（資料４）

水谷委員長：　事務局の方から，平成２６年度の重点課題についての説明をしていただいた。この件に関して意見・質問がある方は，発言をお願いしたい。

神子副委員長：　中期経営プランの実施に関する重点課題だと思うが，ここで挙げている重点課題とそうでないものの違いは何か。また，何を審議するのか。

京　都　市：　中期経営プランでは，実施期間で取り組む事業のうち，５つの重点項目を絞り込んでいる。この重点項目という大きな項目に，それぞれ個別事業がぶら下がっているが，これら全ての個別事業を審議いただくのは困難であるため，特に力を入れるものを５つピックアップし，資料にまとめたものである。今回，ここに挙げている事業の進捗状況等について審議いただきたいと考えている。また，この５つの個別事業以外で，審議すべき事業があるのではないかという御提案でも構わない。

小 林 委 員：　ここに挙げられている個別事業の事業費を見ると，相当大きい額だと感じるが，財源はどのようなものか。

京　都　市：　今年度からスタートした新たな中期経営プランにとって，財源として最も特徴的なものは，昨年１０月の料金改定において導入した資産維持費である。これは水道事業において，老朽化した水道管の更新率を上げていかなければならないという課題に対応するため，新たに導入したものである。具体的には，前プラン５年間平均０．５％であった配水管更新率を，新プランでは最終的に１．２％にまで上げることとしており，この財源の一部を企業債で賄い，一部を資産維持費として料金算定に盛り込んだ。その他，保有資産の売却や，人件費削減等の企業努

力によっても財源を捻出した。

京　都　市：　財源については，下水道事業で，企業債残高の減少が寄与する面もある。中期経営プラン概要版７ページにもあるとおり，平成２９年度には企業債残高は上下水道事業合計４７００億円にまで減少する見込みである。また，同１１ページのとおり人件費を６９億円削減，物件費を２１億円削減する計画である。さらに，営業所の建て替えについては，これまで資産の売却などにより積み立ててきた基金を利用する。そのほか，今後，収入を予定している山ノ内浄水場跡地の賃貸料については，今後の施設整備のために積み立てていく予定である。

なお，別紙４には平成２６年度予算額を記載していないが，市議会への議案発送前であるため，御了承いただきたい。

小 林 委 員：　複合的な財源により大規模な事業を実施していくということがよくわかった。ただ,企業債については,極力増えていかないように更に努力していただきたい。

水谷委員長：　重点項目④「お客さま満足度の向上」で，営業所庁舎の整備が挙げられているが，なぜ営業所の数が減ることがお客さま満足度の向上につながるのか，説明いただきたい。

京　都　市：　平成２０年度の予納金制度廃止や,口座振替払･コンビニ払の利用拡大に伴い,お客さまが営業所に来ていただくこと自体が減少している。具体的には，以前は開栓の際に１００％のお客さまに窓口へ来ていただいていたが，現在は１０％程度である。営業所庁舎の整備により，南部営業所を利便性の高い場所へ移設し，防災拠点としての機能を充実させることができるため，新しい形の営業所としてお客さま満足度の向上に寄与できると考えている。

水谷委員長：　そのように説明いただくとわかりやすいが，今回の資料は，営業所機能の強化についての記述が不足しているため，単に営業所の数が減るだけであるかのように感じてしまう。

神子副委員長：　営業所機能の強化については理解できたが，資料の計画項目には「営業所の抜本的再編に係る諸課題の整理」,「営業所の再編についてお客さまへの周知活動の実施」としか記載がない。これに４億２千万円もかかるのか。

京　都　市：　平成２６年度は当該事業の初年度であるため,土地購入費や,設計費がかかる。上段の計画項目と事業費の関係等,よりわかりやすい表現になるよう,整理する。

中 嶋 委 員：　重点項目⑤の「保有資産の活用」について，旧山ノ内浄水場南側用地の賃貸料についてのみ書かれているが，北側用地の活用について等，今後の資産活用予定についてはどうなっているか。

次に，重点項目③「環境対策の充実」について，「温室効果ガスの削減」を掲げられているにもかかわらず，発電量の記載しかない。温室効果ガスの削減量についての記載が必要ではないか。

最後に，重点項目②「災害対策の強化」について，１０年確率降雨対応について書かれているが，近年の雨量の増加を鑑みて，これで十分な対策と言えるのか，更に対策が必要な地域があるのではないか，ということについてお聞きしたい。

京　都　市：　平成２６年度の保有資産の有効活用について，具体的な計画があるわけではないが，有効活用を進める前提となるため，上下水道局が事業用に使っている土地・建物以外で有効活用が可能なものを３年程前に整理をしている。有効活用を検討する土地は，約１万平方メートル弱あり，有効活用が可能な状況になれば，売却や貸付を進めている。具体的な例として，旧洛翠荘という職員の保養施設があり，数年前に用途を廃止した。これについて，今年度，約３億３千万円で売却できており，保有資産の活用の一つになっている。また，保有資産といえば，土地や建物が中心になるかと思うが，それだけでなく，２箇月に一度の水道使用水量をお知らせする検針票の裏面スペースを活用した広告募集などを含めた資産の活用を行っている。

京　都　市：　太陽光発電設備出力の平成２９年度の目標水準は，浄水場で１，７９０kW，水環境保全センターで２，０１０kW とし，買取り制度を活用する。間接的ではあるが，どの程度の温室効果ガスの削減となるか，記載したい。

京　都　市：　浸水対策の考え方については，１０年に一度の大雨に対応することで整備を進めている。１時間に６２ミリの降雨に対応する基準で整備を進めているが，それ以上の降雨も確かにある。浸水によって地下に雨が流れ込むことで重大な被害が生じることを考慮し，１０年に一度の大雨に対する対策を進めつつ，それ以上の雨が降っても地下街での浸水被害を最小限にとどめる，という考え方も併せて整備を進めている。１０年に一度に対する対応ということでは，昨年度の台風１８号の大雨の際には，そうした整備を行った結果，被害を最小限にとどめることができた。

中 嶋 委 員：　工事が完成したら，京都駅周辺の浸水対策に必要なところは問題なくなるということか。

京　都　市：　そのとおりである。

村 上 委 員：　お客さま満足度の向上について話させていただく。電話一本でサービス対応を行っていることや，コンビニで料金が払えるなどの報告をいただいたが，市民への浸透度がどうなのか，ということをお聞きしたい。また，テレビやラジオ放送で情報を発信すると，視聴者センターというところに，苦情や称賛の声も含めて，たくさんの問い合わせがある。それを一箇月に一度，放送を通じて報告をしている。上下水道局では，市民からの質問や苦情にどう対応しているのか。先週の新聞記事に，多額の水道料金の請求があり，問い合わせると，すぐ漏水の対応を行っていただいた，という記事があった。こういう風になっているのか，と知る良い機会になった。先ほどおっしゃった料金表の裏面広告などに，こういった記事を入れると，安心できる。市民の問い合わせにどのように答え，また，市民にどのように返しているのか教えてほしい。

京　都　市：　口座振替は引き落としよりもコストが低いことを周知した結果，口座普及率は８１．７％となっており，大都市でも１，２を争う水準になっている。コンビニについても，京都市内のほとんどのコンビニで支払えるようにしており，取扱店舗数についても多くの実績をあげている。一方で，お客さまからの反応については，ご意見メールや，上下水道局営業所にお客さまの声をいただくボックスを設けており，色々な形でご意見をいただいている。また，上下水道モニターという制度があり，モニターから直接生の声を聞いている。こうしたことで，反映させられるものについては，ホームページの Q&A コーナーで，よくある質問に対する答えを載せている。お知らせ票の裏面については，現在広告を掲載しているが，そのスペース以外には，上下水道局のニュースを掲載したりしている。また，検針票とは別に，口座振替のご利用や疏水物語を利用した災害用備蓄についてなどのチラシを配付するなど，様々なメッセージを発信している。開栓の申込みをされた際には，水道便利袋という冊子をお渡しし，市民の皆さまからの質問が多い項目について記載している。その他，市民しんぶんやホームページを使いながら市民の皆さまに知っていただきたいことを発信している。またツイッターを使って，その時々タイムリーな情報を発信し，双方向のやりとりをしていきたい。

京　都　市：　お客さまとの関係でいうと，これまで申し上げたとおり，やれることをやってきているのは事実である。しかし，村上委員がおっしゃるように，市民の皆さまにわかりやすく，お知らせをしているかというと，そうはなっていない。

皆さまに先ほどから重点課題としてお知らせしているこの資料については，中期経営プランの事業推進計画から抜粋しており，策定の基本方針は何なのかをここに記したうえで，平成２６年度はこうする，という表記すべきであった。不親

切な資料になっており，大変申し訳ない。この資料については，精査をして作り直したい。山ノ内浄水場の北側用地についても，非常に重要な資源であることから，オール京都市で検討を進めている。平成２６年度にはどういう事業で使われるかが決定する予定である。事業計画にはなかなか書きにくい部分はあるが，進んでいる部分についてはここに分かりやすく示す必要があると感じている。いただいた御意見を改めて受け止め，資料を作成し，次にお渡しする時には２６年度の予算額も含めて整理をさせていただきたい。

田 村 委 員：　環境対策の充実についてだが，太陽光発電というと良いイメージであるが，設備投資で多額の費用がかかる。それに対して得られる電力は少ないのではないか。いいイメージだけが前面に出ているが，実質的にはどうなのか。

京　都　市：　上下水道局では，平成１３年度から小規模の太陽光発電を行っている。こうして太陽光発電に取り組むようになったのは，買取り制度ができたことが大きい。設備投資をしても一定期間太陽光を買い取っていただくことで，費用を回収できることが確認できたため，実施することとした。また，先ほど申し上げたような温室効果ガス削減や施設の敷地の有効利用にも寄与している。

京　都　市：　太陽光発電については，一つ作るのに３～４億円の費用がかかっており，税金ではなく水道料金及び下水道使用料を財源としている。今後２０年間の売電を計画しているが，１４年程で元が取れるため，それ以降は儲けとなり，損はしない。上下水道事業で使用する年間電力量の１パーセントにも満たないが，京都市政が市民の皆さまへの積極的な太陽光発電利用をＰＲしており，多くの施設を持っている京都市が何もしていないのでは，市民の皆さまにご理解いただけないことから，上下水道局の広いスペースを積極的に利用し，損をしない範囲で行っている。

神子副委員長：　１４年で元がとれるとはいえ，設備を買わなければならない。リースなどの方法もある。また，環境対策の中で，それが一番に挙がるのはいかがなものかと思う。環境対策の中には，下水の高度処理の推進や合流式下水道の改善があり，中期経営プランでは，合流式下水道改善率を３９．０％から６６．２％にするなど，かなり大きな事業を進めることとなっている。平成２６年度の事業では太陽光発電が一番大きな事業なのかもしれないが，本家本流の事業である，水をきれいにすることをアピールポイントとする方が，環境対策の充実に値すると思うがどうか。

京　都　市：　先ほど申し上げたとおり，この資料の作成については，非常に不親切であった。目新しいものとして太陽光発電を挙げてしまったが，これについては再度整理する。

本来的には下水の処理や雨水からまちを守るということが大前提である。太陽光発電の設備投資の関係については，企業に場所を貸すことにより，手数料だけ収入するなどの方法があるが，幸い，浄水場や水環境保全センターは大きな面積を持ち，技術者もその場にいるため，直営で行うこと方が，コストを比較してみても一番効率的であり，直営で設置した。

水谷委員長：　神子副委員長がおっしゃることはもっともだと思う。やはり上下水道局なので，本家本元のことをメインにするべきである。

神子副委員長：　①の改築更新については，施策目標Ⅲの有収率向上など，別の項目にも影響する。これをすればこうした効果もある，といったことも注釈すべきだと思う。

水谷委員長：　先ほどいただいた意見を踏まえ，平成２６年度の重点課題５項目の進捗評価をこの委員会で行っていきたい。

（２）上下水道局の広報活動について

事　務　局：　資料の説明（資料５）

水谷委員長：　事務局から説明のあった件に関して，意見・質問がある方は，発言をお願いしたい。

植 田 委 員：　多くの取組をされているが，率直な感想を言うと，すごくぼんやりしていると思う。例えば，7 ページの市バスのラッピング広告は「めっちゃ大好き！京都の水道水」とあるが,「あっそう」という印象である。「京都を守る下水道　4,155km」は，その距離が印象に残るが，資料にある「めっちゃ大好き！京都の水道水」や「上下水道料金を改定します」など，市民にとってぼんやりしたものやあまり嬉しくないものが多い。この経営審議委員会の委員になって気をつけて見ているが，一番わからなかったのが,「おいしい！大好き！京の水宣言募集中」である。このポスターを何度か見かけたが，何をすればいいのかがわからなかった。ポスターに，宣言の募集先など，具体的な情報がわからない。「京の利き水大作戦」も，どこでいつやっているのかがわからないなど，ぼんやりしている印象がある。

水谷委員長：　若者らしく忌憚のない意見であった。委員からいくつか意見をいただいた後，上下水道局に説明をいただきたい。

中 嶋 委 員：　すごく頑張っているという印象である。ただ，先ほどの植田委員からもあったように，何を目的に PR をしているのかがわからないものがいくつかある。「水を

作っています」というのはわかるが，また，広く知ってもらうにはいいのかもしれないが，我々が何を受け止めればいいのかがわからない。個人的に面白いと思ったのは，「すみとくんのつぶやき」である。トリビア的に誰も知らない情報を少しずつ知っていくのは楽しいのではないか。私が知っている中では，国でやっているもので「ダムカード」がある。日本中のダムがカードになっているものであるが，売っているものではなく，ダム事務所に行けばもらえるもので，マニアが集めている。そのような，少し好奇心をくすぐるような密かなブームを作っていく，草の根的に広がっていく情報発信もすごく大事ではないか。

小 林 委 員：　ゆるキャラがもてはやされる以前から「すみとくん」があって，個人的には好感度がアップし，上下水道事業を身近に感じた。私の印象では，市民との距離を近づけることに効果的な広報活動をしている。ただ，資料の１ページにある「いかにマスコミに取り上げられるか」について，思い入れはわかる。しかし，上下水道局が全国的に有名になったのは，実は洛西の配水管事故に時である。その当時は，NHK などでも放送され，着目がすごかった。結果的には，その事故もあり，料金改定に対する市民の理解にも繋がった。マスコミに取り上げられることにも明暗があるので，注意をしながらやっていただきたい。マスコミ受けのする広告も大事なのかもしれないが，マイナスのところもカバーしつつ，足元を固めながら前向きに情報発信していただきたい。

村 上 委 員：　私はラジオ放送を担当しているが，放送以外の事業をラジオでＰＲする時には，何からするのかという優先順位を決めて，季節感を持ってやる。また，ストーリーを持たないと皆さんにわかってもらえない。上下水道局でも色々と広報事業をやっておられるし，印象深いポスターもある。例えば鳥羽の一般公開については，ラジオで行ったことのある方の話を紹介するだけで，視聴者センターに問い合わせある。同様のことは放送ではなくてもできるのではないか。ホームページでご覧くださいというのもあるが，ホームページを常に使えない方もいるので，そういった方へのＰＲをどうしていくか。先ほど大学生を巻き込んでというのがあったが，どういう風に大学生を巻き込んでいくのかをお聞きしたい。

京　都　市：　昨年度は，水カフェを業者に委託し，売上をユニセフに寄付した。水カフェは水道水を使っておいしい飲料を作り，市民の皆様に販売することで，水道水を再確認していただく，というものである。その水カフェの運営を，マーケティングやサービスを専攻している学生やゼミグループに預け，宣伝・運営について，学生ならではのアイデアで，水道水の魅力を発信していきたい。学生の方はマーケティングなどを学んでもらうことができるということで，今，検討をしてもらっている状況である。

中 嶋 委 員：　大学コンソーシアム京都の都市政策研究会に入っているが，京都市政に寄与する学生提案などを行っている。そういうところに，そういう課題と多少の予算を与えて頂けると学生も大変喜ぶ。毎年，この時期に来年度の政策提案のテーマを決めていくので，ご活用いただけると助かる。

京　都　市：　大学コンソーシアムには，上下水道局の担当職員が早い時期に話をしに行ったのだが，あまり反応が良くなかったので，個別に大学に相談し，協力を得られるところがあったので，今，前に進んでいる。また，コンソーシアムにも話をしていきたい。

先ほど植田委員から意見のあった，「おいしい！大好き！京の水宣言」の募集については，確かに分かりにくく反省している。とにかくやっていることを知らせる，ということで総体として出したものである。

そして，ストーリーを作ることについて，一つ考えていることは，先ほども話題に出ていた，下水道のＰＲである。下水道が４，１５５キロメートルあるというポスターは多くの方に見ていただいた。９ページにある，プロジェクトチームの若い職員が工夫して作成したポスターは，１６万基のマンホールがあって，このマンホールが御所車であるということを分かるようにした。これらの情報を知っていただくとともに，若い人たちに下水道の仕事は格好いい，自分たちもやってみたいと実感してもらえるような物語を作っている。若い職員が知恵を絞って進めており，今回御紹介させていただく。

水谷委員長：　私も２点ほど意見がある。１点は，いろいろ頑張っておられることは理解したが，これらには美的なセンスがいる。京都は世界からいろいろな方が訪れる所であり，ごちゃごちゃとした物は景観を害する。神戸大学でも，六甲のキャンパスはきれいであり，美的な感覚から，ごちゃごちゃとした物，ポスターなどを撤去するということでやっている。地下鉄の広告のような柱に巻くような物でも，やはり美的で，さすが日本のイメージとしても素晴らしいものだというようなものにしないといけない。あれもこれもと自分たちのＰＲを前面に出すと，結局ごちゃごちゃして，美的感覚を潰すようなものになることもあり得る。その点に注意するべきだと思う。

もう１点は，つつじを見るためにたくさんの人が来て，浄水場でいろんなことをやっていることがわかる。以前，地方の都市で下水の水をきれいにして蛍が飛ぶように成功したというものがある。京都でもそういうことができれば下水道の大きなＰＲになると思う。是非考えてやっていただければと思う。京都は非常に美しい街であり，いろいろな所に疏水が流れており，いろいろな所に緑がある。街並みもきれいであり，日本の顔でもある。職員の方が頑張っておられると言う

のを，より高い目線でやっていただけるように期待したい。

神子副委員長：　何のための広報活動か分からないという話もあったが，今の管理者の話で，下水道って格好いいと思ってもらえるような，そういうことなんだと分かった。幾つか気になるのは，京都の水道水は本当においしいのかという話である。水道はそもそもおいしい水を供給するためのものではない。水のおいしさは安全性と関係がなかったりする。おいしいということに関しては，どういう風に使ったらいいのか，難しいところではないかと思う。琵琶湖の水は，湖沼からの水であり，特に水質的には悪化しやすいので，それをおいしく，何の苦情もなく供給し続けるのは大変である。本来の目的がそれであったかどうかということが気になった。

また，下水道って格好いいという話に関しては，これは京都だけの話ではなくて，グローバルな視点から見ても，そういうことをちゃんと認識して生活しようというメッセージを出すことは，とても良いことだと思う。全国の上下水道事業体の広報のトップランナーとして，そういうことを目的として持っていることはとても良いことだと思う。そういう視点を，市民に気付いてもらう，また，自分たちの上下水道と皆に思ってもらえるような広報活動を行っていただけると，全国のトップランナーになるのかなと思う。

京　都　市：　広報については，数そのものが少なく気になっており，この１年１０カ月，若い人の力を借りながら，なりふり構わず，まず広報をしていこうという姿勢で，また，そこにはコンセプトを持たなければならない，という形で進めてきた。上下水道局の一番に打ち出すことは，おいしいことだ，ということを引き継いでスタートしてきており，私自身，昔は水が不味かったということを感じていたため，特に中高年の方々には大きいことなのかなという意識を持っていた。確かに，おいしいという言葉をどういう視点で，どういう使い方をするかということは微妙なものである。 そういう意味では，今仰っていただいたような自分たちの上下水道というものをいかに打ち出していくか。皆さんにそういう理解をしていただけるような広報が非常に大事だと感じている。京都・京都，というのではなく，上下水道という事業が皆のものであるということを，いかに作っていけるかということを，ご指導いただきながら進めていきたいと思う。

３　報告

第１回琵琶湖疏水クルーズ（仮称）検討プロジェクトチーム会議について

事　務　局：　資料の説明（資料６）

水谷委員長：　事務局の方から，説明いただいた，琵琶湖疏水クルーズ（仮称）検討プロジェクトチームの件に関して，質問ありましたら，お願いする。

植 田 委 員：　先週，蹴上の方に行ったが，外国の観光客が疏水のインクラインを興味深そうに見ており，疏水は世界中から注目されるものであると感じた。今回，このクルーズ実現のためにがんばる，との事なので，世界に向けて疏水を発信していただきたい。

中 嶋 委 員：　歴史的な資産として，今まで大事に守ってきた資産なので，いい方向に持っていっていただきたい。クルーズのために，資産の価値を損なう事のないようにお願いしたい。プロジェクトが計画を立てる際に，岡崎の活性化や史跡の関係など，周辺との動きと調整する必要がある。クルーズだけで繁栄するものではなく，そのことによってどう波及していくのかを含めて検討していただきたい。

神子副委員長：　採算はとれるのか？

京　都　市：　市民の皆さまの水道料金を使って，琵琶湖疏水・哲学の道の管理を上下水道局がしているので，この事業をすることで，その負担が一層増えることがないようにする。この事業によって，これまで守ってきた資産を損なわないようにするためのプロジェクトチームと理解している。事業主体は上下水道局ではなく，場所を使っていただき，その収益を上下水道事業や琵琶湖疏水の管理に充てていく方向に結び付けていきたい。上下水道局が別途負担する考えは現時点ではない。もし，収入が上がる方法があるのならば，事業主体とともに検討していく。大きな手を加えて，今の魅力を損なうことのないようにしていきたい。

神子副委員長：　現在の概算で１回乗るといくら，など試算しているのか。

京　都　市：　まだ，具体的な数字は出していない。また，事業の実施時期が通年か桜・もみじの季節限定かなど，課題が多く，その課題を克服したうえで，実施していきたい。先日，トンネルの健全度調査をする業者が決まり，この６月を目途に一定の答えが出る，という状況である。

神子副委員長：　いいものであれば，お金をもらえると思うので，いいものを作っていただきたい。

中 嶋 委 員：　基本的には京都市が直営でされるのか。

京　都　市：　事業者をどうするのかも，この中で論議し，答えを出していく。上下水道局の職員が主体となって，船を動かして，経営していくことは考えていない。

中 嶋 委 員：　たとえば大阪城一帯は企業体を入れる方向で調整が進んでいる。きちんとした活用基本計画を立てて，それにあった企業体を募集して，経営を任せて運営していく方針である。やるのであれば，海外のお客さまを呼べるような，派手な事をするという意味ではなく，水準の高いものにしていただきたい。

小 林 委 員：　プロジェクトチームの設置目的はここに書かれているが，疏水クルーズ事業そのものの目的を，明確にして検討していく必要がある。アミューズメントというか，観光に偏りがちなイメージがあるので，是非，京都の歴史や文化，素晴らしく高い技術を，周知徹底，発信，啓発の方に向くようにしていただきたい。

京　都　市：　プロジェクトチームを発足させたのは，観光イメージが先行する報道がされていることから，誤解を受けないように，問題意識を持って，琵琶湖疏水の価値を改めて両市，関係者に知っていただき，事業を進めていくためである。このプロジェクトチームのイニシアチブを上下水道局が持ち，単に観光だけでする訳ではない，という共通理解を持って検討していく。検討を積み上げていったうえで，事業者をどうしていくかを論議していく。

水谷委員長：　このプロジェクトの件については，進捗があれば，また報告をお願いしたい。それでは次第の４，「今後の予定」について，事務局から説明願います。

４　今後の予定

事　務　局：　今年度の審議ついては，本日の第４回を最終とさせていただく。来年度については，今年度と同様に４回程度の開催を予定している。内容については，平成２６年度予算の報告や，事業の進捗確認，平成２７年度重点課題等の検討といった流れを基本に，個別課題についても御審議願いたい。具体的な審議事項については，水谷委員長とも相談のうえ，固めていきたい。次回開催日については，後日，日程調整させていただく。

水谷委員長：　ありがとうございました。以上で本日の審議を終わりたい。委員の皆さまには円滑な審議に御協力いただき，ありがとうございました。来年度も今年度と同じように，審議を円滑に進めていきたいと考えている。それでは，事務局にお返しする。

事　務　局：　ありがとうございました。本日の資料について，不備が多々あったことをお詫びしたい。御指摘を踏まえて資料を修正し，改めて提出したい。以上で第４回 京都市上下水道事業経営審議委員会を終了いたします。委員の皆様におかれまして

は，十分なご審議をいただき誠にありがとうございました。

5　閉会